

特254

117

若松築港誌略

若松築港株式會社

始




特254
117

若松築港誌略

(昭和九年七月増訂)

第一章 若松港

若松港ハ九州ノ東北端ニ位シ、北ハ響洋ニ面シ、六連島ヲ望ミテ彦島ノ航路ヲ控ヘタル港灣ニシテ福岡縣ニ屬ス。灣ヲ洞海ト云セ、其周圍ニ若松市、戸畑市、八幡市及遠賀郡ニ屬スル折尾町ノ三市一町アリテ之ヲ抱擁ス。而シテ城割(堀川ト稱ス)及江川ハ遠賀川ニ通ジ、九州鐵道ハ全灣ヲ圍繞シ、筑豊ノ石炭ハ既ニ斯ノ鐵道ト水運ト補便ヲ藉リテ本港ニ集散ス。以下少シク本港ノ沿革ヲ敘セン。

若松市ハ維新前舊藩田藩ニ屬シ、當時寥寥タル一漁村ニシテ、其ノ港灣ノ如キモ港内水淺クシテ洲渚多ク大船巨舶ヲ容レ、便ナラザレバ僅ニ緩急ノ用ニ處スル舟手ノ要害トシテ、藩廳船司ノ屯營ヲ置キ、其ノ間多ク物貨輸送ノ船出入セシト雖モ而モ亦云フニ足ルモノナカリキ、明治維新ノ後、トシテ進ミ、石炭ノ需要頓ニ開ケシヨリ、筑豊ノ野ハ隨所ニ採炭ノ事業興リシガ、當時ノ石炭市場ハ遠賀ノ川水運ノ便ヲ占ムル芦屋町ニアリテ、若松港ハ猶僅ニ堀川ヨリスル艀舟ノ一部分ノ集中ヲ見ルノミナリキ

然ルニ筑豊炭ノ聲價漸ク世ニ高ク、坑業ノ計畫彌々勃興シ、集散スル炭量ノ逐日増加スルヤ、痛切ニ若松築港ノ必要ヲ感シ、遂ニ明治二十一年八月實地ノ測量及立錐ヲ試ミ好結果ヲ得シガ、石炭需給ノ關係ハ更ニ鐵道布設ノ機運ヲ促進シ、明治二十二年其議熟シテ筑豊興業鐵道會社(後筑豊鐵道株式會社ト改稱シ、

明治三十年九州鐵道株式會社ニ合併スノ設立ヲ見ルニ至ルヤ、若松ガ石炭集散地トシテ芦屋町ニ比シ、地理上有利ノ地形ニアル點ヨリ、當地ヲ以テ起點トナスニ至リ、更ニ其布設ノ順序ヲ、先ヅ若松直方間ヨリ始ムルニ至リタレバ、築港ノ事業ハ焦眉ノ急ニ迫リ、實施ノ議忽チニ決シ、直ニ官ニ請ヒテ時ノ第六區土木監督署長内務三等技師石黒五十二、同六等技師長崎桂ノ兩氏ニ設計ノ指示ヲ仰キ、其意見ニ基キ築港設計ニ着手シ、翌二十二年十月諸般ノ準備全ク整頓スルニ及ヒ、發起者相團結シテ資本金六拾萬圓ノ一社ヲ組織シ、同年十一月三日ヲ以テ願書ヲ福岡縣知事ニ提出ス、是實ニ若松築港ノ素因ニシテ、又若松築港株式會社ノ權輿トス。

爾來年ヲ閱スル事四十余年、其間八幡市ニハ農商務省製鐵所ノ起業セラル、アリ、當港ノ將來益々多用トナリ、之ニ應スル港灣ノ修築ハ次第ニ擴張サレ、當時水深僅ニ五尺餘ノ港内ハ、今ヤ干潮面下二十尺ニ達シ、港口ニハ千四百餘間ノ防波堤築造セラレ其突端ニハ市立燈台ヲ設置シ、又航路標識ヲ施設シテ航路ノ便ニ備ヘ、陸ニハ戸畑停車場内ニ三基ノ電力載炭機（ブラオンホイスト）ヲ設置シ、主トシテ大形汽船ノ積込ニ便シ、又、若松停車場ニハ帆船積込用高架棧橋及電力ホイスト、クレーン、二基ヲ設置シ、帆船ノ荷役ニ資ス、サレハ港内ニハ内外國ノ汽船常ニ輻輳セリ。若シ夫レ帆船出入ノ繁劇ナルハ、本邦中他ニ其ノ比疇ヲ見サル所ナリ。斯クテ海陸ノ設備間然スル所ナク、且ツ四季ヲ通シテ風波ノ脅迫ナケレハ、良港灣ノ聲價世ニ浩ク、明治三十七年四月十日特別輸出入港ニ指定セラレ、大正六年八月廿三日更ニ特別輸出入ノ制限ヲ撤廢セラル。而シテ其ノ貿易狀態ハ昭和七年ノ統計ニ徵スルニ本邦重要港灣中貨物噸數ニ於

テ第二位、同價格ニ於テ第九位、船舶噸數（但登簿噸數）ニ於テ第七位ヲ示セルヲ見ル。

勅令ノ定ムル若松港ノ港界ハ若松燈台ヲ中心トシテ二海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一孤内海面ニシテ、福岡縣令ハ更ニ之ヲ外港本港内港ノ三部ニ區分ス、即チ外港ト稱スルハ戸畑市渡船場ト若松市渡船場トヲ結フ一直線以北ノ水面ニシテ、其面積壹千四拾參萬六千面坪、本港ト稱スルハ外港界線ト戸畑市牧山及若松市金比良山トヲ結フ一線ニヨリ區分サレタル水面ニシテ、其面積貳拾四萬四百六拾參面坪、内港ト稱スルハ本港西界線以西一帶ノ水面ニシテ、其面積參百七萬八千五百四拾壹面坪ナリ、而シテ右ノ内本港ト稱スル區域ハ若松港ノ主体ニシテ、此所ニ繫船浮標ヲ設置シ、大形汽船ノ碇泊スル場所ニ充ツ、然ルニ前掲内港ノ内八幡市平野川口東岸ヨリ北々西ニ引キタル一直線以西約貳百七萬四千坪ノ海面ハ水深頗ル淺ク、僅カニ製鐵所航路ト藤木下航路ヲ除クノ外ハ、概ネ大千潮時ニ在テハ底面ヲ露出スル狀態ニシテ、利用ノ途ナカリシモ、目下若松築港會社ニ於テ此沿岸ニ埋築及其埋築ニ沿ヒテ航路浚渫工事（第二章第二節第四次擴張工事參照）ノ施行中ナレハ、完成ノ曉ハ港灣ノ面目一新スヘシ。

第二章 若松築港株式會社

第一節 會社ノ起原及沿革

一、明治二十一年八月港内實地測量及立錐ノ業ヲ試ミ、同年十一月十一日浚渫會社創立ノ申請ヲ爲ス、コレ築港會社ノ濫觴ナリ。

一、明治二十二年十一月三日石黒五十二長崎桂内務技師ノ設計ニ基キ、資本金六拾萬圓ノ一社ヲ組織シ名稱ヲ若松築港會社トシ、ソノ設立願書ヲ福岡縣知事ニ上呈ス、蓋シ前記浚疏會社ノ具体化セルモノナリ、同二十三年五月二十三日許可指令ニ接シ同年九月工事ニ着手ス。

附記明治二十四年中、鑛業組合及ヒ若松石炭問屋組合ハ、上記設計中ノ港口浚渫工事ノ遅速ハ、直接間接ニ自家ノ利便ニ關スルモノナルヲ以テ、兩組合協議ノ上金九千圓ヲ齎出シ、以テ之レヲ築港會社ニ投シ、該工事ノ速成ヲ期望セリ。依ツテ築港會社ハ専ラ之レヲ港口浚渫ノ費用ニ充テタリ。

一、前記ノ如ク工事ニ着手セルモ、時恰モ一般經濟界ノ恐慌時代ニ遭遇セル爲メ、株命募集困難ノ事實ヲ生セシト、鐵道開通ニ依ル運輸關係ニ伴ヒ、築港工事設計ノ變更ヲ要スルニ至リタルト爲メ、明治二十五年二月二十五日付ヲ以テ資本金ヲ半減シ、工事計畫ヲ變更センコトヲ官ニ乞ヒ、同年七月七日之カ許可ヲ得タリ。

一、明治二十五年七月一日ヲ以テ會社開業ノ年月日トス。存立期間ハ開業ノ年ヨリ六十ヶ年ナリ。

一、明治二十八年三月十三日戸畑沿岸並ニ葛島周圍埋立工事ヲ出願シ、且ツ其費用ニ充ツル爲メ、資本金拾萬圓ヲ増加シ、其ノ總額ヲ四拾萬圓トナサン事ヲ乞ヒ、同年六月二十七日許可アリタリ。

一、明治二十九年頃ヨリ戰後工業ノ勃興ニ伴ヒ、築港設備擴張ノ機運ヲ促進シ來レルニヨリ、之カ準備トシテ港口附近ノ測量立錐等ヲ行フ事トシ、同年八月七日之ヲ上願シテ許可ヲ得タリ、然ルニソノ調査進行ノ央ニ於テ、農商務省ハ製鐵所ノ位置ヲ港内八幡ニ指定セシカハ、當港ノ將來ハ益々多忙トナリ、海

陸共ニ相當ノ設備ヲ要スル機運到來セシニ由リ、時ノ第一區土木監督署長工學博士石黒五十二、日本郵船株式會社船長茂木鋼之兩氏ノ來若ヲ乞ヒ、ソノ調査意見ニ基キ設計方針ヲ確定シ、三十一年九月十二日筑豊ノ重ナル鑛業家ト、九州鐵道株式會社長トヲ請待シテ、擴張實施上ニ付意見ヲ交換シ、同年十一月十五日擴張願書ヲ提出シ、翌三十二年四月二十一日允許ヲ得タリ、此時資本金ヲ百五十萬圓ニ増加セリ、コレヲ第一次擴張工事トス。

一、明治三十二年十二月二十二日製鐵所ハ若松築港株式會社ニ對シ、同社豫定ノ設計ニ從ヒ、築造中ノ防波堤ヲ延長竣工セシメ、且外海ヨリ港内ニ通スル航路ヲ水深二十尺ニ浚渫セシムルタメ、五拾萬圓ノ築港補助金ヲ、同年度ヨリ五ヶ年間ニ交附スヘキ旨ノ命令書ヲ下附セララル。

一、前記第一次擴張工事指今交付ニ當リ、郡衙ヲ經テ、港灣將來ノ關係上、中島葛島間全体ノ海底ヲ、干潮面下貳拾尺以上ニ浚渫方、更ニ起業者ヲシテ出願セシムヘキ旨條件ヲ附シ、許可ノ指令アリタルモノニ付、速ニ出願ノ手續ニ及フヘキ旨移牒アリタリ、該工事ノ必須ナルハ會社ノ夙ニ覺知セル所ナルモ、工費約八拾貳萬圓ノ多額ニ上リ、到底會社ノミノ負擔ニ堪ユル所ニアラサレハ、情ヲ具シテ工費ノ内五拾萬圓ヲ國庫ノ補助ニ仰カンコトヲ乞ヒ、更ニ明治三十二年四月二十八日工事願書ヲ提出シ、三十三年十一月五日之カ許可ヲ得、補助金ハ三十三年度ヨリ三十八年度迄ニ分割交付セララル、コト、ナレリ、コレヲ第二次擴張工事トス。

一、製鐵所、九州鐵道株式會社及若松築港株式會社ノ洞海灣及其沿岸ニ於ケル各企業ハ、相互密接ノ關係

ヲ有シ、個々別々ノ起業ハ將來利害ノ衝突ヲ來シ、各自ノ不利益ナルハ勿論、地方發展ノ上ニモ影響シ公益上最モ慎重ヲ要スルモノアリ、仍テ右三者ノ代表者ハ熟議ヲ遂ケ、利害得失ヲ攻究シ、明治三十三年十一月二十日左ノ事項ヲ協約ス。

- 一、九州鐵道株式會社ハ、製鐵所ノ請求ニ應シ、黑崎戸畑間海岸豫定線ヲ變更シ、製鐵所敷地ヲ迂回スルコト及製鐵所ニ要スル石炭ヲ、同所々屬坑ヨリ其構内ニ運搬スルタメ、鐵道支線ヲ設クルコト。
- 一、若松築港株式會社ハ、製鐵所ニ於テ施工スヘキ洞海湾内製鐵所荷揚場迄ノ航路浚渫ヲ請負フヘキコト及九州鐵道株式會社ノ戸畑停車場敷地ニ要スル埋立ヲ無償ニテ負擔スルコト。
- 一、製鐵所ハ其埋立ノ權利ヲ有スル區域ノ内、拾萬千八百八拾五坪ヲ浚渫土砂捨場トシテ、若松築港株式會社ヘ埋立ノ權利交付手續ヲナスコト。

一、明治三十五年四月二十九日洞海湾埋渫合資會社ト合併、同社ノ資本金參拾萬圓ヲ合シ總資本金百八拾萬圓トナル。

一、明治四十五年一月二十日大形汽船ノ入港増加ニ伴ヒ、碇泊所狹隘ノ爲メ不便少ナカラサルヲ以テ、法定本港内若松側ノ帆船碇泊所ヲ藤木方面ニ移シ、其跡ヲ浚渫シテ大形汽船碇泊所ニ充當シ、以テ將來ニ備ヘンコトヲ設計出願シ、大正二年一月二十日許可ヲ得タリ、之ヲ第三次擴張工事トス。

一、大正六年七月六日資本金ヲ參百六拾萬圓ニ増加ス。

一、大正九年四月十三日歐洲戰時工業界ノ勃興ニ伴ヒ、洞海湾沿岸ノ地ハ工業ノ中心タラントスルノ景況

ヲ現出セルニヨリ、之カ對應ノ策トシテ沿岸ヲ整理シ、以テ起業地トナサンコトヲ設計出願シ、同年十一月六日許可ヲ得タリ、之ヲ第四次擴張工事トス。

第二節 工事ノ概要

○會社創立當時設計工事

- 一、設計ノ概要 港口濬筋及港内浚渫竝ニ防波堤築造ヲ行フモノトス
- 一、浚渫 航路及船舶繫泊所ヲ水深干潮面下拾五尺ニ浚渫シ、又岬山下ヨリ二島ヲ經テ江川口迄幅員參拾間乃至五拾間水深干潮面下四尺ノ航路ヲ通ス、此浚渫坪數參拾六萬壹千七百五拾面坪
- 一、防波堤 港口ニ壹千壹百五拾間ノ防波堤ヲ築造ス
- 一、埋立 六拾八萬壹千四百七拾七面坪七合ニシテ此内譯左ノ如シ
 - 若松東町下ヨリ岬山下マテ 一六、四四〇、七
 - 若松港外防波堤沿岸 一〇六、七〇〇、〇
 - 若松港内戸畑沿岸 一二七、六六七、〇
 - 岬山下ヨリ藤木下マテ 四三〇、六七〇、〇
- 一、石垣 護岸石垣延長六千四百九拾五間
- 一、工事成効及浚渫維持 起業後五ヶ年ヲ以テ成効ヲ期シ爾後四十五ヶ年間維持浚渫ヲナスモノトス

- 一、營業收利 若松港出入船舶ヨリスル通港錢ノ徵收ト埋立地ノ下渡トニ頼ルモノトス
- 一、工事費 六拾萬圓
- 一、出願 明治二十二年十一月三日
- 一、許可 同二十三年五月二十三日
- 一、工事着手 同年九月浚渫工事ニ着手ス

○工事計畫畫變更

前記ノ如ク工事ニ着手シタルモ一部工事設計變更ヲナスニ至リタル事由ハ既ニ前項會社沿革ノ條下ニ述ヘタルカ如シ。而シテ變更設計ノ概要ハ左ノ如シ

- 一、浚渫 港口浚渫長七百間幅七拾五間灣内浚渫長六百間幅五拾間水深各干潮面下拾五尺
- 一、防波堤 延長壹千八拾間
- 一、埋立地 拾壹萬壹千四百參拾五坪、内譯左ノ如シ
 - 若松連歌濱下（港外防波堤沿）一〇六、六五〇坪
 - 若松東町下ヨリ新地下マテ 四、四八五坪
 - 石峯村藤木小古前 三〇〇坪
- 一、工事費 參拾萬圓
- 一、出願 明治二十五年二月二十五日

- 一、許可 同年七月七日

○第一次擴張工事

一、設計ノ概要

- 一、浚渫 航路ヲ幅員七拾間、水深干潮面下貳拾尺、及港内一定ノ區域ヲ干潮面下貳拾尺ニ浚渫ス
- 一、土砂捨場 防波堤起點ヨリ六百間點ニ於テ防波堤中心ニ直角ニ小田岬ニ達スル線ヲ劃シ其以南ノ海面ヲ浚渫土砂投棄場所ニ充ツ
- 一、防波堤 延長千四百參拾七間五分トス
- 一、石垣及溝渠 土砂捨場指定地ノ陸面ニアル水路及溝渠ハコレヲ土砂捨場内ニ疏通セシメ其兩岸ニハ護岸石垣ヲ施ス
- 一、竣効 工事着手ノ日ヨリ五ヶ年トス
- 一、工事費 壹百六拾萬圓（内五拾萬圓製鐵所補助金）
- 一、出願 明治三十一年十一月十五日
- 一、許可 同 三十二年四月二十一日

○第二次擴張工事

一、設計ノ概要

- 一、浚渫區域 中島葛島間海底延長八百四拾間、平均幅七拾七間二分

- 一 工事費 八拾貳萬圓（内五拾萬圓國庫補助金）
- 一出願 明治三十二年四月二十八日
- 一 許可 同 三十三年十一月五日
- 一 工事成効 同三十九年三月三十一日（但第一次第二次擴張工事ヲ通ス）

○第三次擴張工事

一 設計ノ概要

- 一 法定本港内汽船碇泊所擴張分
 - 浚 渫 約六萬五千面坪
 - 水深 干潮面下貳拾尺
- 一 新設藤木帆船碇泊所分
 - 浚 渫 約拾萬貳百參拾面坪
 - 水深 干潮面下拾五尺
- 一 法定本港ト新設帆船碇泊所トノ間ノ航路
 - 浚 渫 約貳萬五千貳百面坪
 - 水深 干潮面下拾五尺
- 一 工事費 百五拾萬圓

- 一、出願 明治四十五年四月廿七日
- 一、許可 大正二年一月二十日
- 一、竣工 大正六年八月

○第四次擴張工事

一、設計ノ概要

- 一 埋立 八幡市前田ヨリ遠賀郡折尾町大字本城ニ至ル地先沿岸公有水面
- 位 置 七拾四萬五百九拾五坪
- 一 航路浚渫 前記埋立地ノ沿岸面積及水深
- 延長壹千九百四拾間
- 幅員五拾間
- 水深干潮面下貳拾尺
- 一 船 入 右航路ニ連絡シ前記埋立地内ニ水深干潮面下拾尺乃至七尺ノ船入七ヶ所ヲ設ク
- 一 竣工期間 第一期工事 着手ノ日ヨリ拾五ヶ年間

第二期工事 第壹期工事終了後七ケ年

一 工事費 九百六拾七萬圓也

一、出 願 大正九年四月十三日

一、許 可 同 年十一月六日

一、着 手 同 年十二月一日

本工事ハ目下進捗中ニアリ

以上列記ノ諸工事ハ實ニ會社事業ノ主体ヲナスモノナリ尙爾餘ノ工事概要ヲ記セハ下ノ如シ

○ 戸畑沿岸並ニ葛島周圍埋立工事

本工事ノ目的ハ港内浚渫土砂投棄場ヲ設ケントスルニアリテ、會社ハ本工事ノ爲メ資本金拾萬圓ヲ増加シタル事ハ前節會社沿革欄ニ述ヘタル如シ其設計ノ概要左ノ如シ

一 埋築地面ヲ三區ニ分チ、第一區ヲ天籟寺川以東、第二區ヲ同川以西、第三區ヲ葛島周圍トシ各區護岸石垣ヲ築造シ、第一區ニ船入場並ニ小廻船及漁船圍場ニケ所ヲ設ク、其埋立面積左ノ如シ

第一區 四萬參千四百貳拾五面坪

第二區 四萬八千面坪

第三區 八千參百七拾五面坪

一、出 願 明治二十八年三月十三日

一、許 可 同 年六月二十七日

然ルニ、第二區ノ埋立權ハ九州鐵道株式會社ノ請ニヨリ同社へ讓渡シノ許可ヲ得タルニヨリ同區ノ埋立ハ自然本願ヨリ消滅スルニ至レリ。

一、成 効

第三區 明治三十年三月十日

第一區 同 三十三年六月十八日

○ 港口改修工事

本工事ハ若松東端渡船場ノ地形甚シク突出シ、港口ヲ狹隘ナラシムルヲ以テ同所ニアル警察署ノ移轉ヲ請願シ、其跡地ヲ切取り以テ港口ノ改修ト潮流ノ緩和ヲ計ラントスルニアリ、會社ハ此工事ニ當リ警察署移轉費及國道改築費ヲ寄附シタリ。

一 出 願 明治三十一年六月二十三日

一 許 可 同 三十三年三月十七日

一 成 効 同 三十四年三月十二日

○ 製鐵所航路浚渫

本工事ハ製鐵所ノ委託ニ依リ葛島以南ノ製鐵所航路浚渫及戸畑八幡ノ沿岸埋立工事ヲ行フモノナリ
一 浚渫土砂量 約貳拾六萬壹千四百貳拾貳立坪

- 一埋立地 參萬八千面坪
- 一工事着手 明治三十三年十一月
- 一工事成効 同 三十九年三月

製鐵所ハ右浚渫埋立ノ義務履行補償トシテ工事費參拾六萬九千參百四拾六圓九拾參錢及製鐵所ノ權利ニ屬スル埋立區域拾萬壹千八百八拾五面坪ノ埋立權ヲ會社ヘ交付セリ、蓋右埋立權ノ交付ハ前節會社沿革欄ニ述ベシ三者協約ニ依レルモノナリ。

○製鐵所沿岸水面埋築工事

本工事ノ目的ハ前記製鐵所委託工事ニヨリ生スル土砂捨場ノ用ニ充テントスルニアリ、其設計ノ概要左ノ如シ

- 一牧山ヨリ枝光川ニ至ル及製鐵所構内境ヨリ以西埋立面積拾萬六千五百貳拾坪
- 但此内牧山ヨリ枝光川ニ至ル區域拾萬千八百八拾五面坪ハ製鐵所ヨリ埋立權ヲ交付サレタルモノニ係ル
- 一海岸石垣 延長壹千五百間
- 一水路石垣 延長壹千八拾八間
- 此埋立地ノ内民有地トシテ當社ヘ下渡ヲ受クベキ土地ハ拾萬七百參拾坪ナリ
- 一、出 願 明治三十四年三月四日

- 一、許 可 同 年六月十日
- 一、工 事 着 手 同 年八月三十日
- 一、成 効 同 三十九年七月十六日

○藤木二島地先埋立工事

本工事ハ築港會社最初ノ設計中ノモノニ屬シテ明治二十五年ノ減資ニヨリ縮少シタル部分ニ該當スルモノナルカ其後洞海北灣埋渫合資會社起リテ之ヲ經營シ來リ、三十五年同會社ト築港會社トノ合併ニヨリ再ビ築港會社ノ經營ニ移レルモノナリ。其設計概要左ノ如シ

- 一埋立面積 參拾五萬六千八百拾七坪五合
- 内
- 一 道 路 敷 四千五百五拾壹坪
- 一 堤防兼道路敷 壹萬百七拾六坪
- 一 惡水路及惡水吐潮除敷 七千九百八拾六坪五合
- 一 浚渫澇筋 藤木ヨリ陣原川口ニ至ル延長參千百貳拾間幅參拾間水深六尺、二子島東側ヨリ分岐江川浚渫會社ノ設計澇筋ニ達スル百四拾間幅貳拾間水深六尺
- 一、出 願 明治二十九年二月六日
- 一、許 可 明治二十九年十二月四日
- 一、工 事 着 手 明治三十年三月一日
- 一、成 効 大正十年十一月五日

本件數度ノ設計變更ニ依リ成効ノ結果ハ左ノ如シ
一埋立總面積 貳拾七萬六千九百拾五坪

内

- 一 下渡地 貳拾六萬壹千七百八拾參坪
- 一 道路敷 壹萬壹千四百九拾四坪
- 一 物揚場敷 四百八拾坪
- 一 惡水路敷 參千壹百五拾八坪
- 一 浚渫浚筋 延長約千九百間幅員五拾間水深拾尺

○ 戶畑市停車場構内地先埋立工事

本工事ノ目的ハ戶畑市停車場構内地先海面ヲ埋立其沿岸ニ大形汽船三艘ヲ横繫シ得ベキ岸壁ヲ設備シ、陸上ヨリスル直接荷役ノ便ヲ計リ延テ港内大形汽船ノ收容力ヲ増シ、埋立地ハ貯炭場ノ用ニ供セントスルニアリ、設計左ノ如シ

- 一 海面埋立 六千五百拾參坪
- 一 繫船壁 參百間
- 一 出 願 明治四十三年四月八日
- 一 許 可 明治四十四年四月二十六日

- 一、着 手 同年五月十一日
- 一、成 効 大正元年十月二十四日

竣効工程

- 埋立地 六千六百九拾八坪八合貳勺四才
- 繫船壁 參百間

○ 戶畑名古屋岬内灣埋立並航路新設工事

本工事ノ目的ハ當港ノ般路狹隘ヲ感スルヨリ、中島ト戶畑市川代トノ間ヨリ名古屋岬ヲ得テ沖濤ニ達スル新航路ヲ浚渫シ空船出入ノ便ヲ計リ以テ本航路ノ輻輳ヲ緩和セントスルニアリ其設計ノ大要左ノ如シ

- 一 航路浚渫 延長壹千九百六拾間幅員五拾間水深干潮面下拾尺
- 一 埋立 拾萬九拾四面坪
- 一、出 願 大正四年五月六日
- 一、許 可 同七年八月二十日
- 一、工 事 着 手 大正八年五月十六日
- 一、成 効 期 限 着手ノ日ヨリ參ケ年

然ルニ東洋製鐵株式會社(久原鑛業株式會社之ニ合併ス)ヨリ同社工場ノ地先關係上該願ノ許可讓受ニ付交渉シ來レルヲ以テ會社ハ之ニ應諾シ、大正八年十月七日出願同年十月二十七日許可ヲ得、乃チ本工事ハ

同社へ移付スルニ至ルリ。

○濱ノ町公有船入設置工事

本工事ノ目的ハ地方興業發展誘導ノ爲ノ且ツハ港内帆船ノ幅狭ヲ緩和スル爲メ濱ノ町埋立区域内ニ公有船入ヲ設置セントスルニアリ其設計ノ大要左ノ如シ

一 船入面積 拾壹萬九千五百六拾貳面坪

一 水深 拾五 尺

一 工事費 七拾四萬八千五百七拾圓

一、出 願 大正七年四月二十七日

一、許 可 同十一年三月七日

一、着 手 同年九月一日

本工事ハ目下進捗中ニアリ。

○八幡市藤田字屋敷地先埋立工事

本工事ノ目的ハセメント製造工場ノ荷役及原料貯藏場所ニ充當スルニアリ、其設計ノ概要左ノ如シ

一、埋立面積 參千參百八拾貳坪

一、浚渫面積 千貳百四拾七坪（水深拾尺）

一、工事費 九萬七千參百七拾五圓

一、出 願 昭和五年三月六日

一、許 可 同六年三月十三日

一、着 手 同年四月十日

本工事ハ目下進捗中ニアリ

○船塹所設置工事

本工事ノ目的ハ當會社經營工事中會社所有ノ船舶及諸機械船修理ノ爲メ、防波堤一部ノ形狀ヲ變更シ其場所ニ船塹所ヲ設置セントスルニアリ

一、設 計

一 防波堤ノ石垣貳拾間ヲ取毀チ地盤ヲ干潮面迄掘下ク

一 防波堤切斷面ヨリ埋立地ニ向ヒ兩側ニ參拾間宛ノ石垣工事ヲ施ス

一 船体滑動台四線ヲ布設ス

一、出 願 大正二年十二月二日

一、許 可 大正三年五月二十九日

一、工 事 成 効 大正四年五月三十一日

本使用期間ハ繼續許可中ニアリ

○防波堤工事

防波堤ハ設計當時延長千五百拾間ナリシガ明治二十五年千八拾間ニ變更シ、三十一年擴張工事ノ際千四百參拾七間五分ニ改メ其工事ハ堤ノ上部ニ混泥土塊ヲ使用スル計畫ナリシモ花崗石一個二十才以上ノモノヲ以テ築設スル方安全ニシテ鞏固ナルヲ認知シタルヲ以テ、明治三十五年中其設計變更ヲ上願シテ許可ヲ得次デ明治三十九年中漁船通路ノ爲メ防波堤七百間點ヨリ貳拾間ノ間虧ヲ設クル事ヲ出願シ、殘部千四百拾七間五分ハ明治三十九年竣効ヲ告ケタリ、然ルニ大正七年濱町公有船入場設置出願ニ際シ、六拾間ヲ取毀チテ船舶通路ニ充ツル事トナシタルヲ以テ、現今ノ總長ハ壹千參百五拾七間五分トナレリ。

○繫船浮標

本港汽船碇繫場區域ニ於テ繫船浮標ヲ設置シ、專ラ大形汽船ノ繫留用ニ供ス

一、本港内（大形汽船用）拾六個

一、戸畑埠頭（戸畑冷蔵會社下）六個

一、戸畑新川尻（鐵道貯炭場下）壹個

○燈台

明治三十六年一月十七日若松市ハ防波堤終端ニ若松燈台ヲ設置ノ義ヲ申請シテ許可ヲ得。其設置費及經費ハ一切築港會社之ヲ寄附スル條件ナリ。初點火明治三十六年八月十五日。無等、アセチリン瓦斯明暗紅光明暗各三秒光達距離ハ晴天ノ夜ニ於テ十裡五ナリ

○航路標識

明治三十七年四月十四日若松市ハ當港入口ニ五個ノ航路標識碇置ヲ出願シテ許可ヲ得シカ現今左ノ如ク増置セリ、而シテ其設置費及維持費一切ハ築港會社之ヲ寄附負擔ス

種類	個數	名稱
挂燈浮標	三	第壹（閃白光）第二（紅光）一ノ瀬閃白光
小形航路浮標	三	第參、第四、第六
障害浮標	一	口ノ瀬
燈標	一	口ノ浦（閃紅光）

第三節 會社及事業ノ總括

一、名稱 若松築港株式會社

一、設立出願 明治二十二年十一月三日

一、許可 同二十三年五月二十三日

一、開業 同二十五年七月一日

一、存立期間 昭和二十七年迄（明治二十五年ヨリ六十ヶ年）

一、資本金 參百六拾萬圓

此株數七萬貳千株（額面 五拾圓）

內譯 舊株參萬六千株 全額拂込
新株參萬六千株 四分ノ一拂込

一、工事

一、航路及繫船場浚渫坪數 七拾參萬八千四百五拾面坪

此工費百五拾壹萬參千貳百五拾壹圓五拾貳錢

一、埋立坪數 五拾六萬四千六百拾貳坪

此工費貳百七拾參萬四千九百參拾圓七拾貳錢

備考 前二項ノ工事費ハ既ニ竣効セルモノニ係ル而シテ現今施行中ノモノハ左ノ如シ

一、洞海灣内埋渫工事

一、浚渫坪數 參拾貳萬參千四百七拾八坪

一、埋立坪數 七拾四萬五百九拾五坪

此工事費豫算額九百六拾七萬圓也

一、若松濱町公有船入設置工事

一、浚渫坪數 拾壹萬九千五百六拾貳面坪

一、埋立坪數 拾七萬參千壹面坪

此工事費豫算額七拾四萬八千五百七拾圓

一、資本金ノ變遷

設立出願當時 金六拾萬圓

明治二十五年七月 金參拾萬圓ニ減資ス

全 二十八年七月 金四拾萬圓ニ増資ス

全 三十一年十月 金百五拾萬圓ニ増資ス

全 參拾五年七月 洞海北灣埋渫合資會社ト合併シ同社ノ資本金參拾萬圓ヲ加ヘ百八拾萬圓ニ増資ス。

大正六年七月 金參百六拾萬圓ニ増資ス

一、補助金

金五拾萬圓 國庫補助金

金五拾萬圓 製鐵所補助金

一、工事費

一、浚渫費 百五拾壹萬參千貳百五拾壹圓五拾貳錢

一、埋立費 貳百七拾參萬四千九百參拾圓七拾貳錢

- 一 機械費 百七拾參萬五千四百六拾貳圓八拾五錢
 - 一 防波堤費 參拾七萬七千貳百五拾九圓四拾五錢
 - 一 監督費 參拾五萬五千九圓七錢
 - 一 標識費 五萬七千七百參圓拾貳錢
 - 一 臨時費 (借入金利息) 四拾貳萬八千參百貳圓拾壹錢
- 備考 以上記載ノ諸工費ハ現今施行ノ工事費及水深維持費ヲ含マス

第四節 港錢及繫船浮標使用料

港 錢

港錢ノ徵收ハ會社經濟ノ根幹ノナスモノニシテ第一次擴張工事ノ際左表ノ如キ定率ノ允許ヲ得以テ今日ニ及ベルナリ。

出入港錢率

第一表		第二表		第三表	
石炭積載高區別 石炭壹萬斤當		米穀三ツ石俵百俵ニ付		石炭區 貨物積載高區別 貨物壹噸當	
拾萬斤未滿	金六錢	日本形 五十石積以上十石ニ付	金拾貳錢	百噸未滿	金參錢
貳拾萬斤未滿	金九錢	全石積以上全	金四錢	貳百噸未滿	金七錢
參拾萬斤未滿	金拾貳錢	五十石積以上全	金六錢	參百噸未滿	金九錢
四拾萬斤未滿	金拾五錢	二間船一艘ニ付	金貳錢	四百噸未滿	金拾錢
五拾萬斤未滿	金拾八錢	三間船全	金參錢	五百噸未滿	金拾貳錢
六拾萬斤未滿	金貳拾四錢	西洋形帆船	金六錢	七百噸未滿	金拾五錢
七拾萬斤未滿	金參拾錢	登簿噸數一噸ニ付	金六錢	七百噸以上	金貳拾錢
八拾萬斤未滿	金參拾六錢			曳船小蒸汽船	
九拾萬斤未滿	金四拾貳錢			登簿噸數一噸ニ付	金三錢
百萬斤未滿	金四拾八錢				
百萬斤以上	金六拾錢				

- 一、貨物ヲ積載シテ入港又ハ出港スル船舶ニ對シテハ第壹表、第貳表、第參表ノ定率ニ依リ港錢ヲ徵收ス
- 二、貨物積載ノ入港船ニシテ揚荷ヲ爲サス出港スルトキハ第壹表、第貳表、第參表ニ依リ港錢額ヲ定メ其參分ノ壹ヲ出港ノトキ徵收ス
- 三、第壹項第貳項ノ船舶ニシテ其貨物少量ノ爲メ港錢額第四項ノ算定額ヨリモ少ナキトキハ同算定額ヨリ減セサルモノトス

四、出入港共貨物ヲ積載セサル船舶ニ對シテハ登簿噸數又ハ石數ヲ以テ積載高ト見做シ第貳表、第參表ニヨリ港錢額ヲ定メ其ノ五分ノ壹ヲ出港ノトキ徴收ス

○備考 右出入港錢率ハ明治三十二年七月以來該率ニ依リ收入シ來レルモ、其第壹表中六拾萬斤以上及第三表中四百噸以上ニ對シテハ其際ヨリ現今迄左記ノ通收入シ居レルヲ以テ之ヲ附記ス

第壹表中 六拾萬斤以上ハ 石炭一万斤當リ 金參拾錢
 第參表中 四百噸以上ハ 貨物一噸當リ 金拾錢

繫船浮標使用料

繫船浮標使用料ハ明治三十八年二月八日浮標設置出願ト同時ニ其保存費トシテ使用汽船ヨリ之ヲ收入スル事ヲ出願シテ許可ヲ得タルモノナルカ漸次修理費ノ過大ヲ來シタル爲メ大正十二年十一月八日料率ノ改正ヲ出願シ同十四年六月五日允許ヲ得タリ、即チ左ノ如シ

繫船浮標一個ニ付使用時間貳拾四時間ニ付左ノ區別ニ依リ使用料ヲ收入ス、但貳拾四時間未滿ノ端數ハ貳拾四時間トシテ計算ス

一、總噸數 千噸未滿 金貳圓
 一、同 參千噸未滿 金參圓
 一、同 參千噸以上 金四圓

自明治廿五年至昭和六年 埋立地成效坪數

場所	民有地		官有地		地	
	道	溝渠	物揚場	堤防	敷	敷
若松	一、八〇八坪	三、一〇九坪	一、四〇四坪	四、六六七坪	一、八〇八坪	三、一〇九坪
東町	一、五八四坪	三、一〇九坪	一、四〇四坪	四、六六七坪	一、五八四坪	三、一〇九坪
濱ノ	二、六三九坪	三、一〇九坪	一、四〇四坪	四、六六七坪	二、六三九坪	三、一〇九坪
計	四、三二一坪	四、六〇五坪	三、三〇一坪	六、四四四坪	四、三二一坪	四、六〇五坪
天籟寺川以東	四〇、二四五坪	三、四九〇坪	八七〇坪	一、四一坪	四〇、二四五坪	三、四九〇坪
同以	六、六九八坪	三、四九〇坪	八七〇坪	一、四一坪	六、六九八坪	三、四九〇坪
同山	一、六二二坪	三、四九〇坪	八七〇坪	一、四一坪	一、六二二坪	三、四九〇坪
計	六三、一六四坪	三、四九〇坪	九四二坪	一、四一坪	六三、一六四坪	三、四九〇坪
八幡	五、八一八坪	四、八八八坪	七六三坪	一、六五〇坪	五、八一八坪	四、八八八坪
前尾	一、七〇七坪	三、一四三坪	四三三坪	一、〇〇〇坪	一、七〇七坪	三、一四三坪
洞前	一、八〇四坪	一、四四四坪	四三五坪	九〇〇坪	一、八〇四坪	一、四四四坪
計	九六、二五九坪	九四五坪	一、二一六坪	三、七六〇坪	九六、二五九坪	九四五坪

昭和九年七月二十七日印刷
昭和九年七月二十七日發行

【非賣品】

福岡縣若松市東海岸通壹丁目開壹番地ノ壹

若松築港株式會社

福岡縣若松市濱參番町參丁目開五拾七番地ノ貳

著作兼支配人 德田文作

福岡縣若松市西新町二丁目四七三

印刷者 吉積秀雄

福岡縣若松市西新町二丁目四七三

印刷所 吉積印刷所

終

